

「第 14 回スポーツ環境会議」議事録（要旨）

令和 2 年 2 月 10 日（月） 14:00～16:00

新宿区役所本庁舎 6 階 第 2 委員会室

1 出席者

1	今泉 清隆（区体育協会）	11	青山 豊（新宿未来創造財団等担当第二課長）
2	金子 和子（区スポーツ推進委員協議会）	12	井出 修（障害者福祉課長）
3	小菅 知三（区レクリエーション協会）	13	高橋 昌弘（地域包括ケア推進課長）
4	山田 和男（区町会連合会）	14	谷川 省一（子ども家庭課長）
5	吉田 律子（区青少年育成委員会）	15	天井 係長（みどり公園課長代理）
6	本橋 弘康（区小学校 PTA 連合会）	16	齊藤 正之（教育調整課長）
7	小泉 美琴（区中学校 PTA 協議会）	17	林 係長（教育支援課教育活動支援係長）
8	宮嶋 武綱（スポーツ関連事業者）	18	浅野 祐介（東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催等担当課長）
9	関口 美緒（公募委員）		
10	宮端 啓介（生涯学習スポーツ課長）		

欠席者 6 名

- 間野 義之（学識経験者）
- 太田原 武（区高齢者クラブ連合会）
- 徳堂 泰作（区障害者団体連絡協議会）
- 藤原 千里（公募委員）
- 小柳 俊彦（新宿未来創造財団）
- 組澤 勝（健康政策課長）

机上配付資料

- 資料 1 スポーツ環境会議設置要綱
- 資料 2 スポーツ環境会議委員名簿
- 資料 3 区レクリエーション協会からの情報提供「あそびの達人養成講座」
- 資料 4 関口委員からの情報提供「外国人旅行者とスポーツ」
- 資料 5 藤原委員からの情報提供「第 31 回東京都肢体不自由特別支援学校ハンドサッカー大会」
- 資料 6～7 障害者福祉課からの情報提供
 - 「新宿パラスポーツ体験イベント」
 - 「見て！聞いて！笑って！わかっちゃう障害理解」
- 資料 8 教育支援課からの情報提供「部活動（クラブ活動含む）を支える環境の整備について」
- 資料 9～12 東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課からの情報提供
 - 「新宿パレード 2020」
 - 「新宿 2020 サポーター大募集」
 - 「東京五輪音頭 - 2020 - 講習会」
 - 「ゆげじい提灯行列」

2 事務局

新宿区 地域振興部 生涯学習スポーツ課

3 会議内容

(1) 開会

(2) 生涯学習スポーツ課長あいさつ

日頃より新宿区の地域スポーツの振興にご尽力をいただき、また本日はお忙しい中、第14回スポーツ環境会議にご出席いただき、この場を借りて厚く感謝申し上げます。

また、後ほど担当部署からも報告をさせていただきますが、去る1月26日には「第18回 新宿シティハーフマラソン・区民健康マラソン」が開催され、皆様のご支援・ご協力により無事に終了できたこと、重ねて御礼申し上げます。

いよいよ東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会も開催まで5ヶ月余りとなった。これまで区でも様々な気運醸成に取り組んできたが、開幕に向け、今後も引き続き皆様のご協力をいただきながら、様々な取り組みに励んで参る。

このスポーツ環境会議は、スポーツ環境整備方針の実現に向け、現状の確認や各団体等の取り組み状況の意見交換をし、スポーツ環境整備に向けての着実な推進体制の検討を目的に開催している。本日も是非忌憚のない意見をお聞かせいただければと思う。

(3) スポーツ環境や活動に関する現状報告及び意見交換（要旨）

ア 各団体・委員からの報告

・区体育協会

区民大会や都民大会においては、以前は水泳種目では上位独占が当たり前のようであったが、現在は7位や8位止まりであり、昨年は入賞すらできなかった。

60周年を迎えるにあたり、体育協会の組織としての強化をし、また都民大会でも上位入賞をしたい。引き続き応援いただきたい。

・区レクリエーション協会

本日は2点報告させていただきたい。

1点目は、特別支援学校・学級におけるレクリエーション、軽スポーツの取り組みである。B4サイズのコピー用紙1枚と飲料用ストロー2本で作ることができる「願い凧」というものを考案し、ある事業の際、子どもたちと一緒に作ってみたところ、体育館内でも、また車イスに乗っている子どもでも揚げることができ、とても楽しんでもらえた。そして、その模様を見た親御さんも、大変感激されていた。こういった障害者との実技スポーツはこれからもどんどん普及していかなければいけないと感じた。11月の新宿区レクリエーションフォーラムにおいても取り上げ、参加者に紹介した。

2点目は、<資料3>をご覧ください。2月15日に「あそびの達人養成講座」を開催する。ここで言う“あそび”とは大人の享乐的なものではなく、子どもの立場に立った“あそび”と解釈していただきたい。緊張をほぐすことを英語で“アイスブレイキング”と言うが、交流によって人と人とを和ませるために30種類ものゲームを新たに提示していくものである。現代の子どもたち

はゲーム機で遊ぶゲームをやりがちであるが、我々は全身を使ったゲーム、例えばけん玉のような伝承遊びを今回の講座で周知していきたい。令和になり、人と人との交流を新しい感覚で深めるといふ視点で講座を開催するので、是非皆様に参加していただきたい。

・区町会連合会

先日の「新宿シティハーフマラソン・区民健康マラソン」では、町会からも何名かがボランティアスタッフとして従事していたようである。毎年従事するのを楽しみにしている者も多く、大変嬉しく思っている。

コミュニティスポーツに関しては、今年度はオリンピック・パラリンピックの気運醸成に関する予算が各出張所に付いた。これにより、柏木地区では、コミュニティスポーツ大会と地域センターまつりに、バタフライの元競泳選手でオリンピックでもある星奈津美さんをお招きすることができた。大変盛り上がり、我々は星さんに来年も是非来ていただきたいと考えており、また、星さんも来年も来たいと言っていた。

ところで、本日午前中に高齢者の健康福祉に関する会議に出席したが、そこで出席されている委員の方が介護予防に関する体操を実演してくださった。そこで言われていたのは、体操教室等に來てくださる方は介護予防になっているが、こういった集まりに來ない方々に対してどのように介護予防をアプローチしていくかが課題である、ということだった。町会の活動は、これまでは地域のイベントや防災教室が主だったが、これからは超高齢社会に対して当事者も協力して、健康で長生きできる環境について考えていかなければいけない。そのためには、体操やスポーツが大きく関わるといふ。小菅委員のお話しにもあったレクリエーションの機会を増やすとともに、家にいる方にもなんとか外に出ていただく機会を皆さんとともに考えていきたい。

・区青少年育成委員会

今年度のスポーツに関する取り組みとして、青少年育成委員会では、3地区でフットサル大会を、1地区でドッジボール大会を、1地区でボウリング大会を行った。

今年に入り、スキーツアーを予定している地区が2地区あるが、今季の雪不足の問題に加え、2泊3日で催行するため、引率の人材も不足しており、さらに昨今の新型コロナウイルス感染症の問題もあるため、現在、催行を検討中である。また、3月に四谷地区で実施するスポーツフェスティバルであるが、今年開幕するパラリンピックに向けて、ボッチャ大会を予定している。牛込第二中学校の生徒会が主体である3月の餅つき大会では、ボッチャ体験とおもてなしボランティア体験を予定している。

・小学校PTA連合会

前回会議以降の取り組みとして、まず、11月に保護者を対象としたバレーボール大会を開催した。

続いて、12月1日に開催した大会250日前イベントでは、柔道のオリンピック金メダリストの谷本歩実選手に講演をしていただいたほか、昨年5月に開催したわんぱく相撲で優秀な成績を収めた児童に対して、谷本選手よりメダルを授与していただいた。夏休みに行ったオリンピック・パラリンピック関連の絵画コンクールにおいて優秀な作品を描いた児童に対しても、同じく谷本選手よりメダルを授与していただいた。

1月には卓球連盟にご協力をいただき、保護者を対象とした卓球大会を開催した。

今後であるが、1月26日開催の「新宿シティハーフマラソン・区民健康マラソン」での入賞者に対して、区内の小学生にメダルを授与させていただく予定である。マラソンは近年かなり人気があり、保護者やPTA役員、教員、区議会議員さん等、知っている方がたくさん大会に参加されており、我々も応援に熱が入った。

また、現在、「新宿区小学校オリンピック 2019」を実施中である。各学校で競技や種目を決め、優秀だった個人・チームにメダルを授与するという企画であるが、市谷小学校では、1月にふれあい班という名前で1年生から6年生までの混合チームを作り、長縄跳びの回数を競った。休み時間等の練習では、学年を横断して行うことで、校内での児童の連携が見られるという効果があった。全校集会での整列の時間が短縮されるなどの成果が如実に表れ、学校からも好評であった。長縄跳びの結果は既に出ており、3月には表彰式を行う予定である。

今週末には、都のPTA連合会のバレーボール大会があり、今年度は新宿区が担当校になっている。我々も運営に関わり、大会を進行していく。

・中学校PTA協議会

西早稲田中学校では、地域協働学校主催のビーチボールバレー大会を開催したが、受験や部活動の試合等と重なり、ほぼ委員による参加となってしまった。今後は子どもたちにどのように参加を促していくかが課題である。中学生は多感な時期であり、親と同じ行動をとらない子どもが多く、親子の連携が難しい。

・スポーツ関連事業者代表

新宿スポーツセンターは、昨年度の長期休館が明け、当初は利用者離れが懸念されていたが、現在は概ね、個人利用者、教室参加者ともに休館前の水準に回復してきている。今期の目標である年間利用者数42万人に向けて、引き続き施設運営に努めていく。

イベント活動としては、11月24日に「新宿スポーツセンターダンス発表会」を開催した。スクール参加者を中心に249名が日頃の練習の成果を発表し、盛況のうちに終えることができた。今年1月13日には当館1階ロビーにて、書道家を招いた書き初めイベントを開催した。当館利用者に予め“2020年の一文字”を募り、その結果選定した“輪”という字をゲストの書道家に書いていただくパフォーマンスのほか、ワークショップで参加者に書き初めをしてもらう等、こちらも大盛況となった。書道パフォーマンスで書いてもらった書については、現在当館2階展示エリアにて展示中であるので、来館された際には是非ご覧いただきたい。

来年度も地域の皆さんがスポーツを楽しめる場所として、書道パフォーマンスの“輪”という字のとおり、人と人との輪を育める場所となるような施設運営を目指していきたい。引き続き皆様のご協力をお願いしたい。

・関口委員

私は仕事柄、日頃接する学生のほとんどが外国人留学生である。また、新宿区には外国人が多いという特殊な地域性がある。このことを受け、今回は外国人のスポーツというものについて考えてみた。〈資料4〉をご覧いただきたい。

スポーツ庁のデータからの抜粋であるが、外国人が日本を訪れる理由はショッピングや観光等、様々である。スポーツツーリズムという言葉があるが、新宿区でできることはなんだろうか。間野教授も以前おっしゃっていたが、これがビジネスとして成立する可能性があるのではないだろうか。外国人が落とすお金が新宿区のためになると分かれば、予算も付きやすいと思われる。

「するスポーツ」と「みるスポーツ」に関するデータを載せてみたが、オリンピック・パラリンピックは多くの人にとって「みるスポーツ」にあたる。「みるスポーツ」の方に目が行きがちだが、レクリエーション協会さんのお話し然り、新宿シティウォーク然り、区では「するスポーツ」のほうにも取り組んでいるので、是非外国人にも参加してもらいたい。参加費の中から記念品を差し上げるなどするととても喜ぶと思う。

外国人はスポーツをすることにお金を払うという価値観を持っているので、将来的にビジネスになるということも少し考えていけばいいと思う。

・藤原委員（所用で欠席につき座長の代読による報告）

私は現在、重症心身障害児の高等部卒業後のスポーツ環境整備に関する活動を積極的に行っている。

<資料5>をご覧いただきたい。2月15日に都内にある肢体不自由特別支援学校全校が参加する「第31回 東京都肢体不自由特別支援学校 ハンドサッカー大会」が開催される。昨年より、新宿養護学校も都立永福学園との合同チームで参加できるようになった。

近年はオリンピック・パラリンピックの影響もあり、障害児のスポーツ環境が確実に向上していることを実感することが多く、嬉しい限りであるが、大切なことはオリンピック・パラリンピック終了後もこの気運が継続していくことだと考えている。この点を含め、引き続きこの会議でも障害児のスポーツに関して、広く意見交換ができればと思う。

皆様には日頃より重症心身障害児の自立支援活動にご理解とご協力をいただいております、改めて感謝申し上げますとともに、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

・スポーツ推進委員協議会

コミュニティスポーツ大会の中央大会が昨年12月に開催された。今年度は全種目合同の開会式を行い、準備体操では参加者全員で新宿いきいき体操をやったのだが、500人近い人がコズミックセンターの大体育室に一堂に会し、新宿いきいき体操をする様子は圧巻であった。新宿いきいき体操が初見となる人が少なかったのは、各地区の予選の準備体操でも新宿いきいき体操を用い、また各地区のいきいき体操サポーターの方々が日々普及に励んでいるからに他ならない。

次に、先日の「新宿シティハーフマラソン・区民健康マラソン」であるが、スポーツ推進委員もボランティアリーダーとして大会ボランティアに関わった。ボランティアリーダーは毎年、新宿未来創造財団職員とともに事前にコースの下見を行い、大会の運営がスムーズに行くよう協力している。今後は、東京マラソン、若松地区の箱根山駅伝が控えているため、こちらもサポートしていく。

また、我々はオリンピック・パラリンピックに向けて、年間を通してボッチャとゴールボールの普及に励んでいる。特にボッチャに関しては、幼稚園・子ども園の出前授業を始め、町会からの依頼も多い。高齢者クラブからも、東京都大会に向けた練習のため、地域センターに教えに来て欲しいという要望をいただいている。

このように1年中忙しく活動しているが、我々はイベントだけに関わるスポーツ推進委員ではなく、いろんな思考ができるスポーツ推進委員になりたいと考えている。2月7日に島根県で、全国のスポーツ推進委員が一堂に会する「生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2020」が開催されたが、そこに新宿区のスポーツ推進委員が10名参加した。10名ものスポーツ推進委員が参加した自治体は全国的にかなり珍しいのだが、10名も参加することで、自分たちが研修会をするときに話がスムーズに進むことが多く、研修の大切さを感じている。

イ 各課での取り組みについて

・生涯学習スポーツ課

スポーツをする場所が足りないという声が多くあるが、令和2年4月1日に「四谷スポーツスクエア」という区立施設を新たにオープンする。スポーツができる施設のほか、会議室を備えた施設であり、現在オープンに向けて準備を進めている。

地下部分にある四谷スポーツスクエアについては、バレーボール、バドミントン、卓球などができ、講演会等の催しもできる多目的ホール、会議室、ダンスができる鏡張りの部屋や防音設備の付いた音楽室がある。地域の方々はもちろんそれ以外の方々にも積極的にご利用いただきたい。

工事はまだ完了していないが、4月1日からのオープンに向け、3月から利用に向けての団体登録の受付や予約の受付を開始する。

・新宿未来創造財団

新宿未来創造財団のスポーツに関する取り組みについて、4点ご報告させていただく。

1点目は、「新宿シティハーフマラソン・区民健康マラソン」である。今年度は1月26日に第18回大会を開催したが、本日お集まりの皆さんをはじめ、多くの方にご協力をいただき、無事に終えることができた。この場を借りて感謝申し上げる。全体として約9,800名の方にご参加いただき、区長も3km部門に参加した。今大会は、知的障害のある選手が参加する「第5回 日本IDハーフマラソン選手権大会」との同時開催であったが、この大会の上位3名がIDハーフマラソン世界記録を上回るタイムでのゴールとなった。1位の選手の記録は1時間6分50秒であり、総合でも6位の記録である。これまでのIDハーフマラソン世界記録が1時間8分5秒であったため、世界記録1分以上更新したことになる。このほか、日本知的障がい者陸上連盟より区長に感謝状が授与された。次回の大会では新国立競技場をスタート・ゴール地点にできるよう、現在調整をしているところである。

2点目は、「コミュニティスポーツ大会」である。昨年12月8日に新宿コズミックセンターで中央大会が開催された。今大会よりボッチャが中央大会の正式種目になり、熱戦が繰り広げられた。地区大会と合わせ、3,200名以上の方に参加いただいた。

3点目は、「親子スポーツチャレンジ」である。昨年11月23日に新宿コズミックセンターで開催し、トップアスリートによるかけっこ教室、ダンス教室、体操教室等を行った。当日は650名以上の方に参加いただき、親子でスポーツを楽しんでいただいた。

4点目は今後の話であるが、4月4日に「レガスマつり」を今年も開催する。オリンピック開幕100日前が近いので、100日前イベントということも含めて、例年の取り組みに加え、トップアスリートとの交流等も検討している。詳細が決まり次第、新宿未来創造財団の広報等で周知をさせてい

ただく。

・障害者福祉課

障害者関連団体が行う事業について、2点ほどご案内させていただく。

1点目は、「新宿パラスポーツ体験イベント」についてである。〈資料6〉のとおり、新宿区障害者福祉協会の主催で、3月1日の午前10時から午後4時まで、新宿コズミックセンターの大体育室にて開催する。パラリンピアンの方々をお招きし、パラスポーツの体験コーナーを行うほか、手話ダンスやお笑い芸人の方にもゲストに来ていただき、楽しく過ごしていただきながら、パラリンピックを盛り上げていこうというものである。

2点目は、新宿区手をつなぐ親の会の主催によるパラリンピック関連イベントである。〈資料7〉のとおり、3月21日の午後1時30分から4時30分まで、戸山サンライズにて開催する。2部構成になっており、1部では「パラリンピックが東京に教えてくれること」と題した講演を行う。2部では、お笑い芸人の方々とWindsという知的障害疑似体験キャラバン隊に来ていただき、障害者理解を深める60分とする予定である。

・地域包括ケア推進課

「新宿いきいき体操」の普及については、前回の会議以降もいきいき体操サポーター育成講習会や現在活動されている方向けの研修機会の提供等を行い、普及啓発に努めている。コミュニティスポーツ中央大会の様子やスポーツ推進委員の方々が積極的に取り組んでいるお話が先ほど座長よりあったが、11年目を迎え、今後もより一層の普及啓発に努めていく。

高齢者クラブへも様々な形で支援をしている。ボッチャの取り組みが進んでいるという話があったが、今後も共に取り組み、高齢者が地域でスポーツに親しみながら、いつまでも元気でいられるような環境づくりをしていきたい。

区では「高齢者保健福祉計画」の見直しを3年に一度行っているが、今年度調査を行い、来年度計画策定を行うため、本日午前中に委員の方々を交えた推進協議会を開催した。先ほど山田委員よりその様子をご紹介いただいたが、体操等に参加している方は熱心に取り組んでいるが、こういったところに中々出てこられない方へ我々行政がどのように普及啓発していくかが重要であると考えている。一方で、この調査を行う中で、地域で活動している様々な団体への聞き取り調査を行ったところ、地域の中での声かけによって参加するケースが多いということが改めてわかったので、本日お集まりの委員の皆様のお力を借りながら、区民同士の情報や交流を深めていきたい。

・子ども家庭課

当課では、各地区の青少年育成委員会のスポーツ活動等に対し、助成という形で事業を支援している。

また、児童館では、ほぼ全ての館でボッチャ、卓球、サッカーなどを、様々な教室もしくはクラブ活動という形で補助的な活動している。放課後子どもひろばでは、学校の校庭や体育館で体を動かす取り組みをしており、11月には牛込仲之小学校や落合第六小学校でスポーツチャンバラ教室を、戸塚第一小学校や落合第五小学校、淀橋第四小学校でボッチャ教室を、富久小学校でダブルダッチクラブを行った。

・みどり公園課

当課は公園の計画や整備、管理運営を行っている。区立公園は区民にとって非常に身近な施設であり、子どもたちの遊び場、気軽にスポーツができる場所として非常に大切な場所と認識している。その観点で、当課の取り組みについて、紹介する。

1 点目は、区立公園で最大の広さを誇る新宿中央公園についてである。西新宿二丁目の都庁近くに位置するこの公園の魅力向上を図るため、今年度から順次整備工事を行っており、現在は芝生広場などの再整備工事を行っている。まもなく面積約 8,500 平方メートルの大きな芝生広場の整備が完了するが、この後芝生の養生等があるため、一般開放時期に関しては、芝生の生育状況を見て決めていく。

2 点目は、子どもの遊び場の整備である。来年度、中落合三丁目のやよい児童遊園の全面再整備を予定している。現在は、地域の方々との意見交換や、学童クラブに行き、子どもたちにどんな公園にしたいかを聞きながら、新しい公園の整備計画を作っている。地域の方々と話している中でも、子どもの利用が非常に多いということ分かり、大きな遊具を設置しようということになった。設置する遊具については、近隣の小学校の子どもたちに意見を聞いて決めていく予定である。工期は今年の秋頃から来年の 3 月を予定している。

3 点目は、公園トイレ及び公衆トイレについてである。公園で遊んだりスポーツしたりする上で、トイレは重要な設備であるため、現在、快適に使えるトイレ作りを進めている。今年度は車イス利用者も使える多機能トイレを新たに 4ヶ所設置するとともに、現在あるトイレについても順次洋式トイレ化を進めている。

これからも公園利用者のご意見等をお聞きしながら、遊びや健康づくりに寄与できる公園の整備を進めていきたい。

・教育調整課

教育委員会では、小・中学校における取り組みについてご紹介させていただく。

まず、平成 29 年度より全校で実施している障害者スポーツ体験事業であるが、各学校でボッチャ、ゴールボール、ブラインドサッカー、車イスバスケットボール、シッティングバレーの 5つの種目から選択し、取り組んでいる。オリンピック開催前年ということで新たに行ったこととしては、今回のオリンピックでも新たに採用される種目であるスポーツクライミングを授業の中で体験できるよう、体育館の肋木に取り付けが可能な「肋木クライミングウォール」を小学校全校に設置した。夏休み期間中に、活用などについての教員向けの研修会を行い、子どもたちに授業の中で体験する機会を設けている。また、平均台に替わりバランス感覚や体幹を鍛える「スラックライン」という種目も導入した。

中学校においては、部活動の顧問を務めることができ、なおかつ教員に代わって大会などへの引率も行える部活動指導員を配置した。本日、担当課である教育支援課の係長にも同席いただいているので、後ほど詳しくご説明いただく。

また、東京都がオリンピック・パラリンピック競技大会に子どもたちに競技観戦をさせる事業を考えており、区では現在、新宿区立の全小・中学校、幼稚園の 5 歳児を対象にすることを検討している。夏期による熱中症対策や公共交通機関利用時の安全確保等、様々な課題があるため、オリンピック・パラリンピック開催等担当課にも参加いただき、教育委員会内部に競技観戦の検討委員会

を立ち上げた。この中で、今後実施に向けての具体的な検討を進めていきたい。

それでは、先ほどご案内した部活動支援員について、教育支援課よりご説明をいただく。

・教育支援課

中学校の部活動支援について、このスポーツ環境会議でも度々意見が出ていたため、当課で担当している部活動支援について情報提供をさせていただく。〈資料 8〉をご覧いただきたい。中学校の部活動のみならず、小学校のクラブ活動においてもサポートしているため、「部活動（クラブ活動を含む）を支える環境の整備について」とした。

平成 30 年度より、「新宿区立学校における部活動ガイドライン」に基づき、取り組みを開始した。ガイドラインの概要であるが、スポーツ障害の予防、体罰等の根絶等は当然として、競技特性を踏まえた計画的、合理的、科学的な指導を行うことを示した。また、もう一つ大きな特徴として、適切な休養日等の設定を掲げている。我々が子どもの頃は、年末年始以外は年中部活動があるものとして当たり前だったが、週 2 日以上休養日を設け、活動時間は平日は 2 時間程度、学校休業日は 3 時間程度となるよう調整し、練習試合や大会等がある場合には、次の週で実情に応じて調整するように策定をした。

今年度の配置状況についてであるが、現在 11 名の部活動指導員を配置している。予算定数は 13 名であるため、2 名欠員という状況であるが、これは各校の活動曜日等、指導員とのマッチングが上手くいかず、採用が難航しているためである。

活動実績であるが、〈資料 8〉のとおり、中学校 6 校、小学校 3 校で様々な種目について配置している。先ほど座長からも研修の大切さのお話があった。学校等からの推薦によって配置する場合もあるが、我々も採用、配置するにあたり、公募によって採用する場合は、学校に直接指導に行っていたため、研修を重要視している。〈資料 8〉に研修実績を記載したが、これ以外にも随時、教材研究や分かりやすい指導について議論をしたり、学校において適切に指導ができるよう我々も支援をしている。

今後の課題であるが、まず、指導員の質と量の確保が挙げられる。現在は学校の需要と供給のバランスが比較的取れているが、年度によってはバランスが取れないこともあるだろう。その場合、本日お集まりの団体の皆様や地域の方々からのご協力が不可欠になってくると思われる。地域のスポーツ・文化団体や大学・企業等との連携を強化しながら、良質な指導人材の確保をしていきたい。もう一つの課題として、教員の働き方改革を進めていく中で、学校と地域でうまく共存し、部活動指導ができないかということである。教育委員会内に「教員の勤務環境の改善・働き方改革 PT 会議」というものが設置されているが、その会議内に新たに「地域部活動検討部会」というものを設置し、今後、部活動について、学校と地域と共存しながら、どのようにしたら上手く部活動を展開していけるかを、教員の働き方改革も並行しながら、質の高い指導員の確保もできるような方策について、この中で検討を進めて参りたい。検討の結果については、来年度のスポーツ環境会議で報告できればと考えている。

・東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課

前回会議以降の取り組みであるが、まず今年のラグビーワールドカップ 2019 開催期間中に実施したパブリックビューイングがある。歌舞伎町のシネシティ広場と伊勢丹新宿本店の区内 2 会場で

実施し、非常に多くの方にお越しいただいた。また、12月1日には、落合第二中学校と落合第三小学校で大会250日前記念イベントを開催した。スポーツ体験コーナーやステージパフォーマンス等を実施し、約3,100名もの来場があった。

小学校PTA連合会からもお話しがあったが、昨年の夏休みに、小学校PTA連合会と中学校PTA協議会に共催いただき、絵画コンクールを実施した。「2020年に応援したいことやチャレンジしたいこと」をテーマに作品を募集し、非常に多くの生徒・児童に呼び掛けていただいたお蔭で、1,206点もの作品の応募があった。これらの作品を活用し、オリンピック・パラリンピック競技大会までカウントダウンをする日めくりカレンダーを製作し、区内の区立小・中学校全校に配布した。また、区内の東京電力のトランスボックスにも、この作品が装飾されている。マラソンコースを中心に、320ヶ所に装飾される予定であり、今月中に全ての装飾が完了する予定である。既に装飾が完了しているところもあるので、もしご近所等で見かけられたら、子どもたちの思いを感じていただけたらと思う。

今後の事業についてであるが、まず<資料9>をご覧いただきたい。3月29日に新宿通りで「新宿パレード2020」を開催する。これは東京2020大会の気運醸成と、日本の文化・新宿の伝統の魅力を発信するという2つの目的がある。パレードイベントをメインとし、アスリートゲストの方々や音楽隊、阿波踊り、区内の11基のお神輿によるパレードを行う。そのほか、小・中学生による演奏や鉄砲組の演技、スポーツ体験ブースも予定しており、パレードのフィナーレは全員で東京五輪音頭2020を踊る。午前9時から午後5時まで交通規制を行い、一日がかりの非常に大きなイベントである。続いて<資料10>であるが、新宿2020サポーターを昨年5月より募集をしている。現在300余名の方に登録して頂いている。1日3~4時間程度の活動であり、気軽に参加が可能となっているので、是非周りの方にもお声がけいただければと思う。続いて<資料11>であるが、1月から2月にかけて地域センター10所を回り、東京五輪音頭2020の講習会を行っている。毎回50名程度の参加があり、大変人気がある。1時間15分ほど東京五輪音頭2020を踊ると、みんな汗だくとなり、いい運動になっているようである。本日現在であと2所残っているので、是非ご参加いただきたい。<資料12>の「ゆげじい提灯行列」については、区主催の事業ではなく、新宿浴場組合が主催しているものである。裏面にゴール記念イベントの記載があるが、今週末の2月16日に新宿スポーツセンターで実施する。こちらでは東京五輪音頭2020の振り付け講習会やボッチャの体験会も実施する。

先ほど障害者福祉課長からもお話しがあった<資料6>及び<資料7>のイベント、それからこの<資料12>のゆげじい提灯行列の3つの事業に関しては、当課と東京2020大会区民参画事業助成という助成金を活用していただき、実施するものである。この助成事業は来年度も実施する予定のため、先ほど区町会連合会からもお話しがあった星奈津美さんをお呼びしたいという件も特別出張所から予算が出なければ、活用できるかと思う。3月5日頃から募集開始を予定しているので、もしお考えの事業があれば早めにご相談いただきたい。

いよいよ今年7月にオリンピックが、8月にはパラリンピックが開幕するが、それぞれの大会期間において、区主催のパブリックビューイングを実施する予定である。オリンピックに関しては7月24日が開会式であるが、競技自体は7月22日から、サッカーとソフトボールが始まる。7月22日から8月9日までのオリンピック期間については、西新宿にある住友三角ビルのアトリウム広場を会場としてパブリックビューイングを実施する予定である。8月25日から9月6日までのパラリ

ンピック期間については、工学院大学新宿キャンパスをお借りしてパブリックビューイングを実施する予定である。

聖火リレーについては、3月12日にギリシャで採火式が行われ、3月26日から福島県を皮切りに全国の聖火リレーがスタートする。リレーコースは昨年12月に既に大会組織委員会より発表されているが、その聖火リレーが新宿に来るのが、7月24日の開会式の日となっている。新宿のスタートが西新宿の住友三角ビルとなっており、甲州街道と新宿通りを通過し、四谷四丁目まで行き、そこで折り返して靖国通りを西の方に戻り、新宿中央公園を周って、都庁がゴールとなっている。パラリンピックも聖火リレーがあり、東京都のスタートが新宿の8月21日となっている。パラリンピックの聖火リレーコースは未定であるが、現在ランナーを東京都で募集中である。募集締切が2月15日となっているので、ご興味のある方は募集要項と応募様式が当課にあるので、お帰りの際にお立ち寄りいただきたい。

最後になるが、このオリンピック・パラリンピックの聖火リレーに際して、多くのボランティアの方が必要になる。ボランティアについては今後募集をさせていただく予定であるので、ご協力をお願いしたい。

ウ 各報告を受けての自由意見

・区レクリエーション協会より

各団体・各課からの報告について、何点か質問させていただく。

1点目は、先ほどわんぱく相撲についてのお話があったが、外遊びの機会も減少している昨今、子どもたちの体力増進という観点からも、相撲という競技を我々レクリエーション協会としても推奨したい。そこで、現場の安全対策やけがの対策はどうなっているか。

2点目は、四谷スポーツスクエアについてのお話があったが、団体登録について他の区立スポーツ施設と同じように考えていいのか。駅前の一等地であるので、大変人気も出るであろう。何かに特化した施設なのか。予約の取り方や料金についてもお教えいただきたい。

最後に、部活動を支える環境の整備についてであるが、大変画期的なことだと思う。「新宿区立学校における部活動ガイドライン」を示しているが、新宿区における法的な根拠はあるのか。条例や規則や罰則のようなものはあるのか。

・小学校PTA連合会より

わんぱく相撲については、わんぱく相撲新宿区大会実行委員会等と小学校PTA連合会の共催となっている。持ち回りで各校にお手伝いをお願いしているが、競技自体は相撲連盟さんが中心となり、大学の相撲部に競技の安全対策や進行をお任せしている。参加者の保護者は、けが等のリスクを各々承知の上で参加させていると思うが、実際にこれ以上やったらけがをするだろうラインを見極める部分については、相撲連盟さんにお任せしてしまっている。消防署にも協力をいただき、何か発生した場合は速やかに初期治療等を行っていただく等のサポートをしてもらっているが、小学校PTA連合会として何をしているかという面においては不足していると思う。

・生涯学習スポーツ課より

四谷スポーツスクエアの団体利用については、区民団体と区外団体とで分ける予定である。区民

団体は区内在住の方が過半数となる 10 名以上の団体を、区外団体はそれ以外の団体を想定している。登録受付は 3 月から開始する予定である。予約の申込については、他の区立スポーツ施設に準じた形で、区民団体を優先的に受け付け、その後に区外団体を受け付ける予定である。料金については、施設の設置条例については議会を通過しており、その中で料金の上限額が設定されている。指定管理者制度によって運営するため、具体的な料金設定については指定管理者が 3 月中に行う。他のスポーツ施設とのバランスを考えながら料金を設定していく。

- ・教育支援課より

「新宿区立学校における部活動ガイドライン」については、スポーツ庁が策定している「運動部活動のあり方に関する総合的なガイドライン」及び東京都教育庁が策定している「運動部活動のあり方に関する方針」を基本とし、新宿区の実情を踏まえて策定したものである。条例や規則といった位置付けではないが、区の教育委員会内で意思決定を取ったものである。

学校長の指導のもと、適切な指導計画を立てることを定めているので、これに反した場合、教育委員会より指摘や改善命令等を行うことはある。

(5) 各団体の連携について

- ・金子座長より

健康部の「ごっくん体操」、福祉部の「新宿いきいき体操」及び「100トレ」の3つの体操と一緒に取り組むというチラシを見たことがある。これを多くの人に見ていただき、広めていただきたいと思う。これを見ていただくと、高齢者の健康づくりについて具体的で分かりやすく、気軽に参加しやすくなるのではないかな。

- ・地域包括ケア推進課より

様々な機会でも3つの体操を相互に取り組んでいただけるように、これまで健康部と様々に連携してきた。引き続き、このようなものを活用し、一体的に普及に取り組んでいきたい。

- ・区体育協会より

私はダンススポーツ連盟の会長も務めているが、ダンススポーツ連盟ではかつて、区町会連合会の主催で、牛込笹笥地区で年3回ほどダンスの練習会をやっていた。毎回30~40名ほどが集まり、大変人気があった。講師はダンススポーツ連盟から派遣するので、他の地区の町会連合会でもこうしたものをやっていただくと、健康・長生きにとってもいいのではないかな。また、ダンスに限らず他のスポーツでも是非お声掛けいただきたい。

- ・区町会連合会より

各地区に情報提供を行い、ニーズを調査した上で、是非協力をお願いしたい。

4 行政からの連絡について

次回のスポーツ環境会議の実施日程、内容等は未定のため、決定次第お知らせする。